

# 第 1 章

## 計画策定の基本的考え方と 千葉県の教育をめぐる現状

### 千葉県の概要

面	積	5,156.60km <sup>2</sup> (H21.4.1 現在)	全国 28 位
人	口	6,186,546 人 (H22.2.1 現在)	全国 6 位
世	帯	数 2,498,539 世帯 (H22.2.1 現在)	全国 7 位
人	口	密 度 1,199.7 人 / km <sup>2</sup> (H22.2.1 現在)	全国 6 位
市	町	村 数 54 (市 36, 町 17, 村 1) (H22.3.23 現在)	全国 8 位
教	育	委 員 会 数 55 (市 36, 町 17, 村 1, 学校組合 1) (H22.3.23 現在)	

(人口・世帯数・人口密度の全国順位は平成 20 年 10 月 1 日現在の順位)

# 1

## 計画策定の趣旨

資源に乏しい我が国にとって、人材こそが最大の資源であり、まさに財産といえます。千葉県、ひいては日本の将来の発展は、この「人づくり」をおいてはなしえません。

明日の千葉県、そして日本を担う若者を育てることは、すべての県民の願いであり、県政の最も重要なテーマの一つです。

千葉県の教育を取り巻く状況は、学力向上、豊かな心と健やかな身体の育成、職業への理解と働く意欲の向上、ルールやマナーを大切にする意識の育成、いじめや不登校への対応など、解決すべき多くの課題があります。

こうした教育課題をはじめ、あらゆる教育問題には適時性があり、教育に従事する者としては、迅速かつ適切に対応していくことが求められています。

一方で、千葉県は首都に隣接しながら、三方を海に囲まれ、温暖な気候、豊かな自然に恵まれ、多様な産業や優れた多くの人材が集積し、郷土としての魅力にあふれています。

また、小学生・中学生の体力が全国トップレベルにあり、読書好きの児童生徒の割合も全国に比べて高い傾向にあります。さらに、音楽については、小・中・高校生のブラスバンドやオーケストラの水準もトップレベルです。

こうした千葉県のポテンシャル（潜在能力）を最大限に活用して、様々な教育課題に着実に対応し、子どもたちが基礎学力を養い、高い道德性を身に付け、豊かでおおらかに、そして、自信にあふれた頼もしい人間となるよう、明日の千葉県、そして日本の未来を担う子どもたちを家庭・学校・地域が一体となって育てていくことが必要です。

このため、日本をリードする教育県を目指し、子どもたちが、郷土と国を愛し、真の国際人として活躍できる「教育立県ちば」の実現に向けて、教育基本法に基づく本県の教育振興基本計画「みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」を策定します。

## 2 策定のプロセス

本計画は、本県の教育課題への対応や本県教育の今後の在り方について検討いただくため、平成21年9月に設置した「千葉県の教育を元気にする有識者会議」からの提言を踏まえるとともに、平成19年に千葉県教育の中長期の指針として、多くの県民参加のもと策定された「千葉県教育の戦略的なビジョン」（教育戦略ビジョン）を基盤としました。また、改正された教育基本法とそれに基づき決定された国の「教育振興基本計画」並びに新しい学習指導要領を踏まえるとともに、教育関係者、関係団体等からの意見聴取、パブリックコメントなど、多くの声を反映しながら策定することとしました。

## 3 計画の性格

県民一人一人が、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会の実現が図られなければなりません。

こうした生涯学習社会にあっては、人と人とのつながりの中で、様々な主体、多様な形態により、自ら学び、成長していく取組が行われています。これを踏まえ、本計画では、学校教育、社会教育、文化、スポーツ、さらには環境、福祉なども視野に入れ、本県教育の10年後の姿を展望し、それを実現するための目標と施策の方向性、今後5年間に実施する重点的・計画的な取組を示すこととしました。

また、県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画である「輝け！ちば元気プラン」との整合性を図るとともに、具体的な取組についても連携して進めます。

なお、本計画は、教育基本法第17条第2項に規定される「地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として策定するものです。

# 4

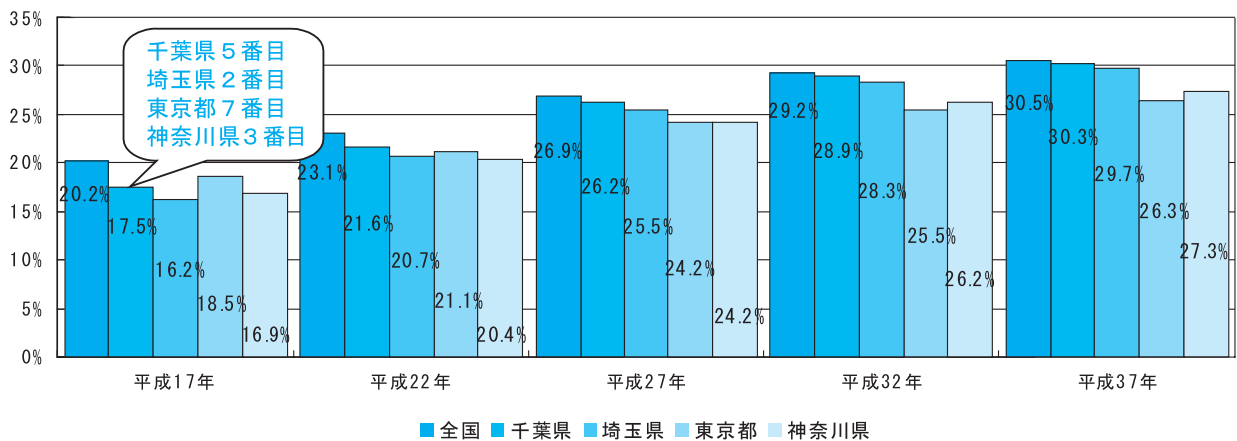
## 千葉県をめぐっての現状

### (1) 少子・高齢化

現在（平成 17 年国勢調査）本県の高齢化率（全人口に占める 65 歳以上人口の割合）は、17.5%で、全国で 5 番目に低い数値となっています。一方、本県の合計特殊出生率<sup>注1</sup>は、一時の減少傾向から、やや増加傾向にあるものの、依然として全国平均を下回り、平成 20 年には 1.29（全国 1.37）と全国で 8 番目に低い数値となっており、少子化が進んでいます。

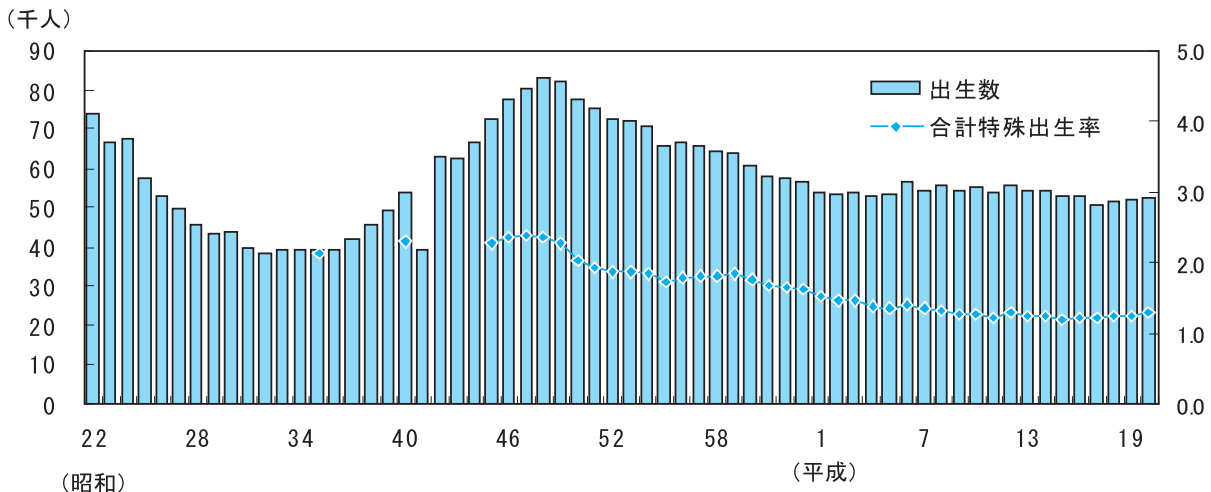
今後、少子化や「団塊の世代」<sup>注2</sup>の高齢化により、平成 27 年には県民の 4 人に 1 人が高齢者となるなど、急速に高齢化が進んでいく見込みです。

全国及び首都圏の老齢人口の割合の推移



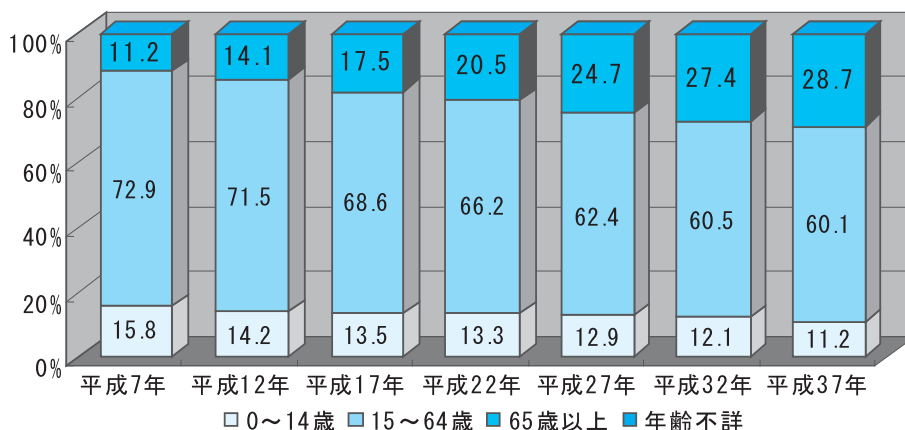
〔平成 19 年度都道府県別将来推計人口〕（国立社会保障・人口問題研究所）より

千葉県出生数及び合計特殊出生率の推移



〔平成 20 年人口動態統計〕（千葉県健康福祉指導課）より

年齢区分別に見た千葉県の人口割合の推移



平成 22 年 1 月「将来人口の推計結果」(千葉県)より

千葉県が「100人の村」だったら……

平成 21 年 10 月 1 日現在、千葉県の人口は、6,183,743 人です。

もし、千葉県が 100 人の村だとしたら、100 人のうち **14 歳以下**の人は **13 人**、**15 歳～64 歳**までの人は **67 人**、**65 歳以上**の人は **20 人**です。このうち小学校の児童は 6 人、中学校の生徒は 3 人、高校の生徒は 3 人です。

多くの大人たちが、少ない子どもたちにどうかかわっていくのがよいのか、また、大量退職の時期を迎える今後、地域の高齢者の力をどのように活用するのが問われています。



平成 22 年 1 月「将来人口の推計結果」(千葉県)、「平成 21 年度学校基本調査」(文部科学省)より数値作成

注 1 合計特殊出生率：1 人の女性が一生の間に生む子どもの数の推計値

注 2 団塊の世代：昭和 22 年から昭和 24 年にかけて生まれた世代



## (2) 家族構成の変化

平成 17 年 10 月 1 日現在の本県の世帯数は、2,325,232 世帯で、前回調査（平成 12 年）に比べて 7.0% 増加しています。

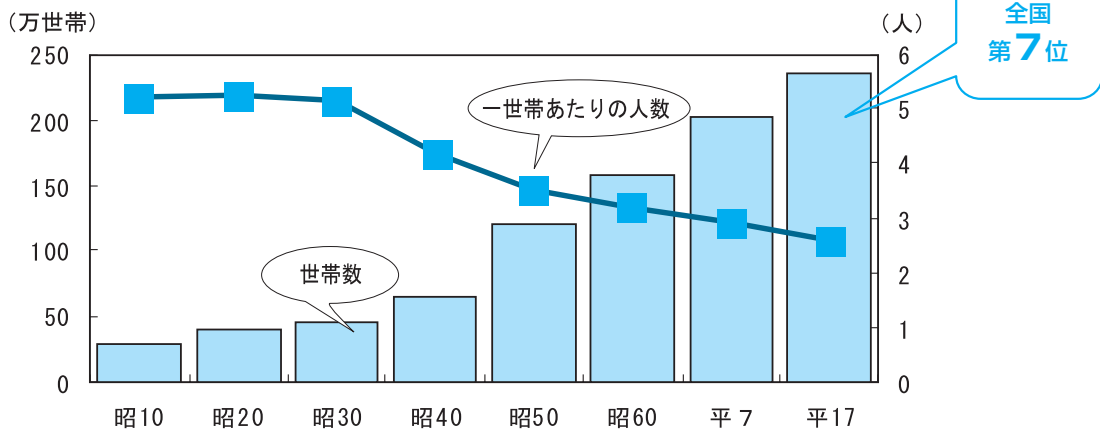
1 世帯当たり人員は、昭和 20 年の 5.32 人をピークに減少を続け、平成 17 年では、2.60 人となっています。

また、一般世帯<sup>注1</sup>を家族類型別にみると、核家族<sup>注2</sup>世帯は 1,431,350 世帯（一般世帯の 62.1%）で、前回調査に比べて 5.7%増加しました。

県全体では 6 割以上が核家族といえますが、県内でも、地域によって大きく差があることがわかります。

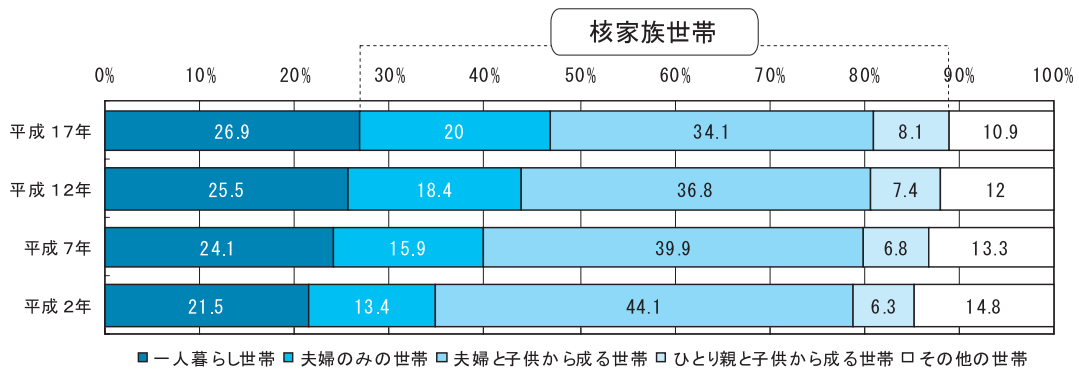
家庭教育は、すべての教育の原点であることから、家族構成の変化は、子どもたちの成長に大きな影響を与えていることが考えられます。

### 千葉県の世帯数と一世帯当たりの人数



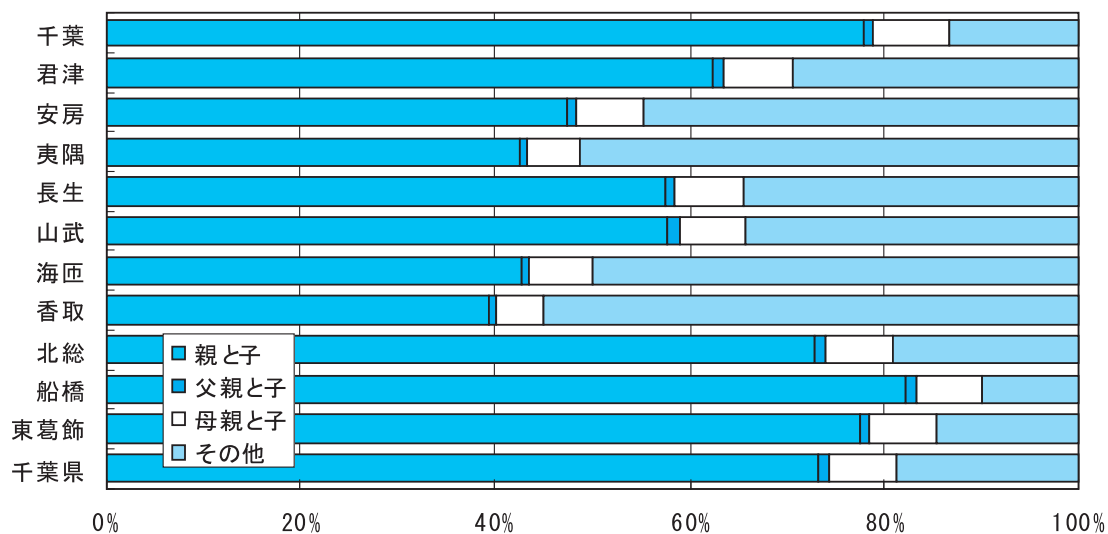
〔平成 17 年国勢調査〕（総務省統計局）より

### 千葉県の一般世帯の家族類型推移



〔平成 17 年度国勢調査〕（総務省統計局）より

家族構成別世帯割合（18歳未満の子のいる世帯）

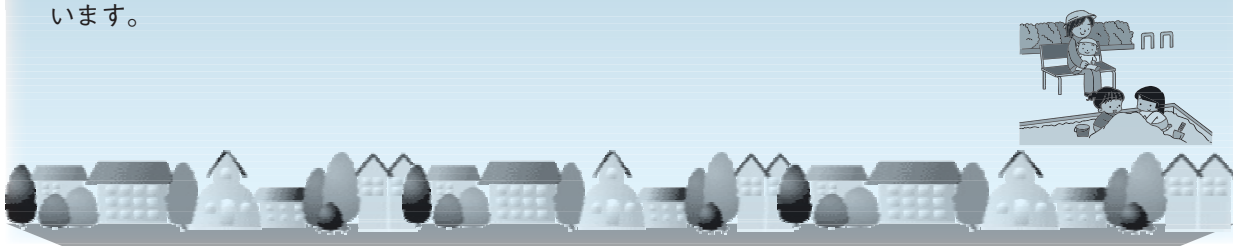


〔平成17年国勢調査〕（総務省統計局）より

千葉県が「100人の村」だったら……

平成17年10月1日現在、もし、千葉県が100人の村だとしたら、**38世帯**があり、そのうち**核家族世帯が24世帯で、単独世帯は10世帯、その他の世帯は4世帯**となります。

一人暮らし世帯と核家族世帯の占める割合が、平成2年からみると3.8ポイント増加しています。若い世代の親が、育児や子育ての悩みを打ち明ける存在を持っていないことが、大きな問題となっています。



〔平成17年国勢調査〕（総務省統計局・千葉県統計課）より数値作成

注1 一般世帯：全世帯から学生寮・病院・社会施設などの施設等の世帯を除いたもの

注2 核家族：一組の夫婦と未婚の子だけから成る家族

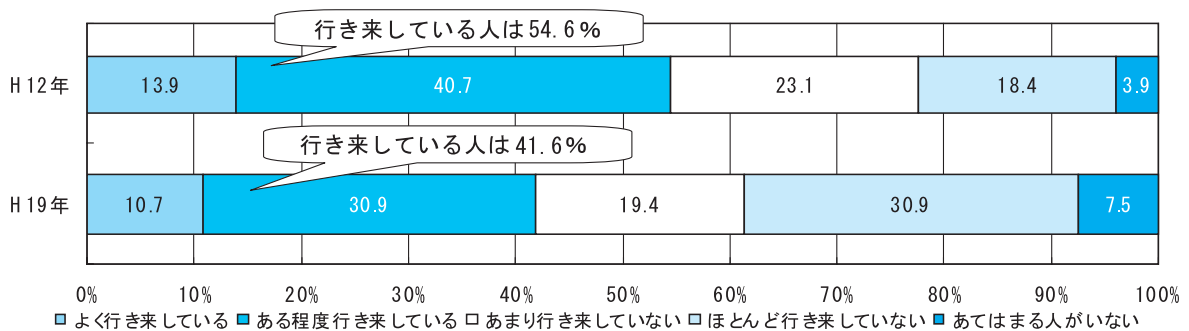
### (3) 地域コミュニティ

全国調査で隣近所の人との行き来についての推移を見ると、「よく行き来している」あるいは「ある程度行き来している」と答えた人の割合が、平成12年には54.6%と半数を超えていましたが、平成19年には50%を下回っています。

また、千葉県調査の近所や職場での人間関係については、16年度と20年度を比べると「満足している」と回答した人の割合が12ポイント減となり、総じて、近隣関係の希薄化が進んでいることを示しています。

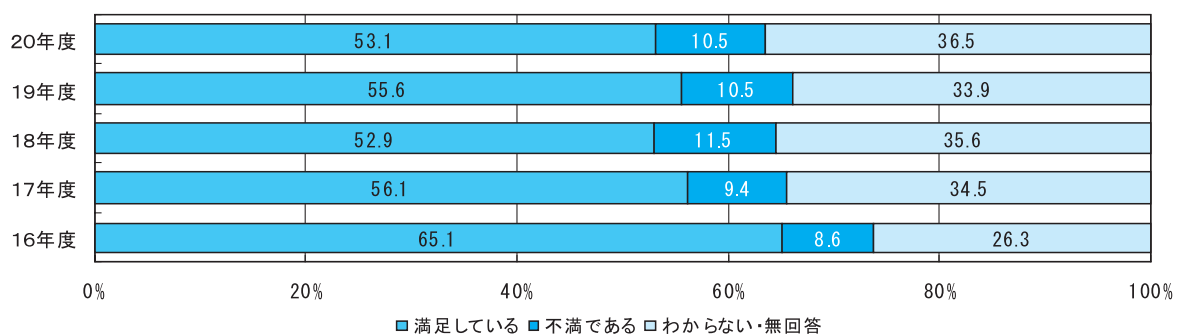
これに対し、千葉県の中学生の地域の行事への参加について見ると、「当てはまる」あるいは「どちらかといえば当てはまる」が、33.9%となっています。近所の人へのあいさつについて見ると、「当てはまる」あるいは「どちらかといえば当てはまる」は、82.7%となっています。

#### 近所付き合いの程度の推移（全国）



〔平成19年国民生活白書〕（内閣府）より作成

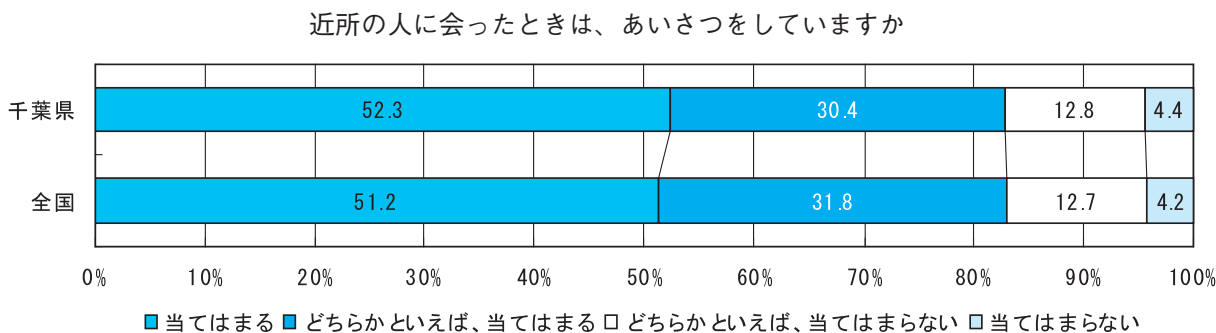
#### 近所や職場での人間関係 [推移]（千葉県）



平成16～20年度「県政に関する世論調査」（千葉県報道広報課）より作成

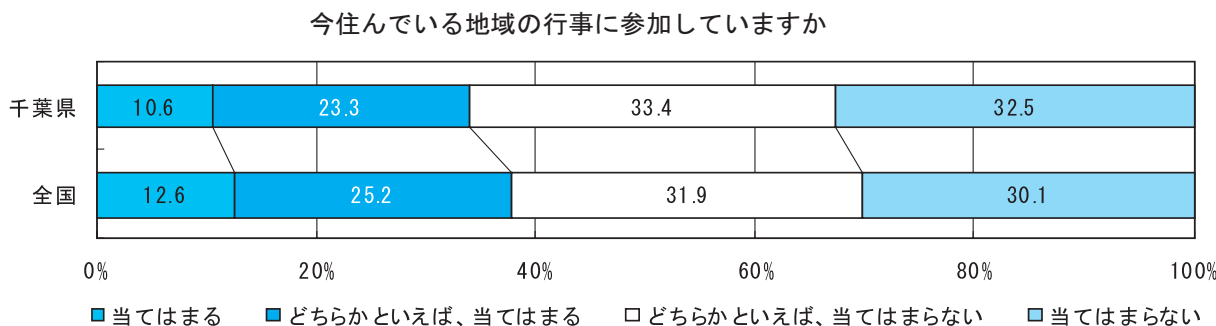


中学生のあいさつの度合い（全国・千葉県）



〔平成21年度全国学力・学習状況調査〕（文部科学省）より

地域行事への中学生の参加（全国・千葉県）

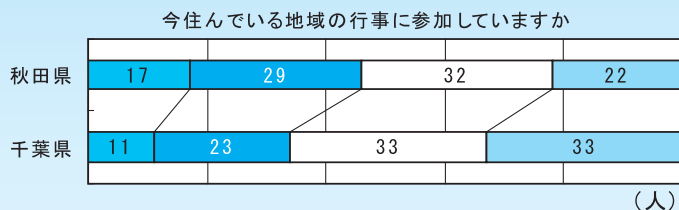


〔平成21年度全国学力・学習状況調査〕（文部科学省）より

千葉県が中学生「100人の村」だったら・・・  
秋田と千葉の子どもたちに「地域の行事への参加」を聞いたところ

全国学力・学習状況調査で成績がトップレベルの秋田県と千葉県の公立中学校生徒のアンケート結果の比較が、右のようになりました。

**「住んでいる地域の行事に参加しているか」**の問いに対して、「当てはまる」と回答した生徒は、秋田17人、千葉11人、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は、秋田県29人、千葉県23人でした。



〔平成21年度全国学力・学習状況調査結果〕（文部科学省）より数値作成